

## 駐大連北九州市経済事務所

◆所長 永元 博文 ◆副所長 内藤 崇徳

◆副所長 呂 俐

永元 E-mail: suozhang@kitakyusyur-dl.com

**北九州都市圏域市町によるトッププロモーションを実施！**

「第29回アカシア祭り」及び「2018 中日観光大連ハイレベルフォーラム」の開催に合わせて、北九州都市圏域から10自治体の首長級が今年5月25日(金)から5月28日(月)の日程で大連を訪れ、各自治体の観光プロモーション活動を実施しました。

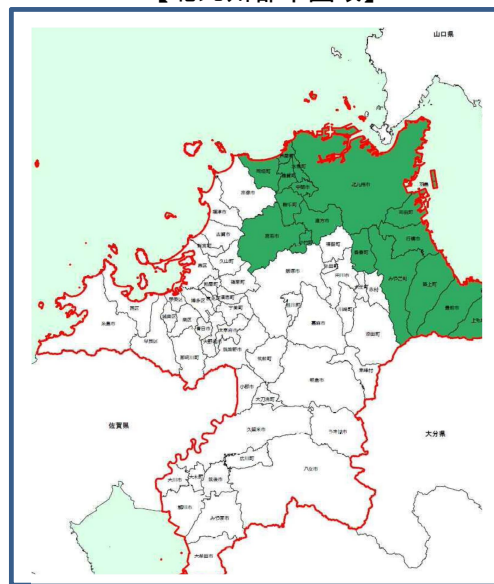
## ○概要

「北九州都市圏域」は地域の中心都市と近隣市町が「経済成長の牽引」「高次都市機能の集積・強化」「生活関連機能サービスの向上」の3つの柱をもとに連携し、人口減少・少子高齢化社会においても一定の圏域人口を有し、活力ある社会経済を維持するための拠点を形成することを目的として形成した連携中枢都市圏の名称で、北九州市を含む6市11町で構成されています。

今回のトッププロモーションには、北九州市、直方市、中間市、芦屋町、水巻町、小竹町、鞍手町、苅田町、上毛町、築上町の計10自治体から約30人が参加してそれぞれの地域の魅力を紹介し、北九州空港を活用した中国からのインバウンド観光客誘致を積極的に働きかけました。期間中は、大連市内の主要旅行会社約30社及びマスコミ関係者、大連市政府関係者等にお集まりいただいた「北九州都市圏域PRセミナー」を開催するとともに、1989年より市民の祭りとして始まった大連の代表的なイベント「大連アカシア祭り」や、中日の各都市が参加して地域連携を通じた観光振興を促進する「中日観光大連ハイレベルフォーラム」の各プログラムに参加し、中日の観光事業者や政府関係者に各自治体の観光資源や特色ある街づくりなどを紹介しました。

また、大連市・譚成旭市長及び大連市中日友好協会の于健軍会長とそれぞれ会談を行い、大連市と北九州都市圏域の相互の経済発展や民間交流の促進について意見交換を行いました。

【北九州都市圏域】



## ■「北九州都市圏域PRセミナー」

5月26日（土）に大連市・新世界ホテルにおいて開催した同セミナーには、北九州圏域自治体関係者と大連市内の主要旅行会社、マスコミや大連市政府関係者など、約70名が参加しました。

冒頭、主催者を代表して北九州市・北橋市長が参加いただいた皆様にお礼を述べた後に、大連市政府の于志龍副秘書長に来賓代表としてご挨拶を頂きました。

その後、スライドショーを用いて北九州都市圏域を構成する計17自治体の魅力と北九州空港の概要についてプレゼンテーションを行うとともに、各参加自治体の代表者がそれぞれの観光資源や特色を会場内の参加者にPRし、大連市からの送客を呼びかけました。

また、会場内には北九州圏域を構成する各自治体の紹介パネルや物産コーナーを設置するとともに、セミナーの終了時には各自治体のPR物品を参加者に配布することで、それぞれの自治体の印象を深めました。



## ■「2018 中日観光大連ハイレベルフォーラム」でのPR

5月27（日）から開かれた同フォーラムには、日中の自治体・観光関連団体・企業等が参加し、中日観光協力を通じたウィンウィンの関係構築をテーマに、基調講演や市長円卓会議、パネルディスカッション等が行なわれました。特に、今年は北前船寄港地間の連携や交流による地域活性化を目的として設立された「北前船フォーラム」の第23回大会との合同開催となったことで、例年にも増して日本からの参加者が多く、開催期間中には各自治体関係者や国会議員、観光事業者など1,000人近くの日本人が来連するたいへん盛大なイベントとなりました。



同フォーラムでは、基調講演者の一人として北九州市・北橋市長が登壇し、北九州都市圏域の概要や各自治体の魅力・特色を紹介しました。また、市長円卓会議には北九州市長のほか中間市・福田市長と鞍手町・徳永町長が出席し、“中日都市間の観光協力と発展の共同促進”について議論したほか、“地域間協力による中日観光発展のウィンウィンの実現”をテーマとしたパネルディスカッションでは北九州市観光にぎわい部・渡部部長が登壇し、北九州市の観光の魅力を紹介しました。

(基調講演をする北橋市長)



(パネルディスカッション)



## 大連市の旅行会社が北九州・福岡市内の旅行会社と 北九州都市圏域の観光資源を視察訪問

北九州～大連便の日本人利用客の増加を通じて同便の更なる安定運航を図るため、7月2日（月）～4日（水）の間、北九州～大連便を利用して中国からのツアー造成を行っている古蓮国際旅行社の王麗華董事長一行が来北し、日本発のツアー造成や個人向け航空券の販売促進について協力を要請するため北九州市及び福岡市内の旅行会社を訪問しました。訪問した各旅行社では、ツアー造成にあたっての座席確保やハンドリング方法などについて具体的な協議がなされており、同便を活用した日本発ツアーの今後の進展を期待するところです。

また、古蓮国際旅行社は、5月に大連市で北九州都市圏域セミナーを開催した際に紹介があった、中間市にある俳優・高倉健さんの記念碑に興味を持っており、今回の来北機会を活かして同地を視察したほか、中間市内の世界文化遺産施設も訪れ、北九州ツアーでの新たな見学候補地の一つとして検討をはじめると、同セミナーの開催がたいへん有意義なものであったと感じています。

北九州～大連便は2016年10月から定期便の運行を開始しました。この便を利用して北九州市を訪れた観光客は2017年度（2017.4月～2018.3月）の1年間で1万3千人近くにのぼり、北九州市経済の活性化に大きく貢献しています。引き続き、同便の搭乗率が高まるとともに、出来るだけ多くの中国からの観光客が北九州を訪れるよう、空港担当部署と連携しながら旅行会社等との関係強化を図ってまいります。